

東洋町 医療救護行動計画(目指す姿)

従前:最寄りの診療所●を中心とした医療救護計画を作成



1 南海トラフ地震の発生で起こり得る安芸支部管内の状況

大きな揺れ、家屋の倒壊、ライフライン停止、津波による浸水、火災、道路網、通信網の寸断による孤立化、多数の死傷者・行方不明者、医療資源不足……

災害医療対策安芸支部会議で対策について検討

負傷者の発生

管内では、被災状況や交通網の寸断等により、必ずしも指定されている医療救護所等で主体的な医療活動が行うことが出来ないことが想定される。

このため、従前からの医療救護体制をもとに、「準医療提供場所」(SMS; semi medical spot)や「地域の医療施設」(LMF; local medical facilities)を救護計画に加え、そこへ参集できた医療従事者や住民により、まず、初期治療(応急手当)や安定化措置の実施が必要不可欠と判断。

また、各々の医療救護所、SMS、LMFと災害対策本部との画一的な情報連絡手段を構築し、必要な情報や資源の提供及び後方搬送が素早く行える体制も重要であると決定する。

救護病院、医療救護所 + 準医療提供場所、地域の医療施設、住民参加

応急手当・安定化措置・療養

被災直後、混乱が想定されるなか
 ・負傷者は何処へ搬送したら?
 ・医薬品や人材は何処へ行ったら?
 ・どこで医療活動が行えるか?
 ・医療提供情報を知りたい?

最善の備えは可能!!

自主防災組織 知ってるよ

必要なアイテム

	自助	近助	共助	公助
訓練	○	○	○	○
啓発	○	○	○	○
計画	○	○	○	○
通信	○	○	○	○

後方搬送場所(外部受援)

2 通信網強化型 東洋町 医療救護行動計画の概要

誰もが協力できる「新たな医療救護行動計画」の策定 東洋町

情報を中心としたネットワークを構築

目的→負傷者に対し、正確・迅速な治療・処置・療養・搬送を行います。
 目標→目的達成に必要な行動を明確にし、各自が速やかに対応可能な行動を起こせる仕組みを整備します。
 また、日頃から災害を意識し、減災(負傷者の低減)を目指します。

東洋町医療救護ネットワーク

東洋町役場、医療救護所、救護病院、SMS、LMF、地域住民

環境整備、協力・提供、地域住民(自主防災組織)、協力、地域医療施設、LMF Local Medical Facilities、外部支援受入箇所(ヘリポート等)

地区ごとの総力戦!

各地区に適合した行動計画の策定

甲浦地区、野根地区、生見地区

地域ごとの総力で負傷者を援護!!

求められる医療救護行動計画

- 目的・目標が明確
- 誰もが協力可能な体制の整備
- 自助、共助、公助の連携
- 継続した体制の確保・怪我をしない準備
- 情報網、外部支援箇所の確保

誰もが協力できる行動計画の事前準備が不可欠

各地区的医療救護プラン、Q&A、救護所等設置シート、救護計画に係る広報等による周知、応急手当、患者搬送訓練の実施、各種講演会の開催により啓発。

通信網強化型 配備計画

